



扇小だより

考える子 思いやりのある子 強い子

令和7年度 第10号

51年目

6月6日 児童数701名

新たなステージへ 入間市立扇小学校

子供の主体性を伸ばす支援

学校長 村越 新

『致知』（2025.6号）に、お茶の水大学名誉教授である内田伸子氏の対談記事があります。氏はこの中で「**共有型しつけ**」の重要性について述べています。大事な示唆だと思いますので、紹介します。

○「共有型しつけ」とは、両親が普段から子どもに
しっかり向き合い、コミュニケーションをとって
いるしつけ

- ・子供の興味関心に基づく自発的な遊びの時間を大事にしている
- ・「洗練コード」を意識した言葉がけをしている

→ **3つのH** 〈褒める・励ます・（視野を）広める〉

○「共用型しつけ」とは、親自身が子供との楽しい経験を共有したいと思って
行うしつけ

- ・他の子と比べるのではなく、その子の過去と比較して**成長を褒め**てあげる
- ・先生に**叱られたことを励まし**てあげる
- ・勉強する**意義を伝えて視野を広く**持たせてあげる

○「共有型しつけ」を受けている子は、語彙能力が高く、主体的、意欲的になっ
て伸びていく

反対の「**強制型しつけ**」（禁止や命令を多用して子供に考える余地を与えない言葉がけをするしつけ）を受けている子供は、家の中でも常に叱られないよう親の顔を窺いながら緊張した状態で過ごすようになって、自分で主体的に考え、行動することをしなくなる、と氏は述べています。

学校でもこれを参考に、子供の主体性を伸ばし、自走する子を育てたいものです。



6月4日 学校探検（1, 2年）

2つの勇気



6月5日 開校記念日朝会

6月3日（火）の講話朝会では、「勇気を出して行動しよう」という話をしました。誰もが持っている二種類の勇気を使ってほしいという願いです。

一つ目は「やる勇気」。簡単に言うと、正しいと分かっていたら、それをいつでもやるという勇気です。やればいいに決まっていること、分かっていることをしない人は「やる勇気」を出していないから。「やる勇気」があれば、だいたいのことはできるのです。

もう一つは「やめる勇気」。やらない方がいいと分かっていることを、やめる勇気です。長い時間ゲームをしない方がいいことは誰だって分かるのに、やめない人がいる。それは「やめる勇気」がないのです。やめた方がいいと分かっていたら勇気を出してやめてもらいたいのです。

「勇気」の2つの特徴についても話しました。使えば使うほど、友達から信用される人になること。使えば使うほど、その「勇気」は大きくなって、強い人になれること、の2つです。

扇っ子には、2つの勇気を出し切って、よりよく成長してもらいたいのです。

プール開き

6月2日（月）、令和7年度のプール開きを行いました。参加したのは、最高学年の六年生です。実は、プール開きを六年生が行うことには、大きな意味があります。



プール開きは「水」に安全を祈願する行事です。

水は人間の生活にとって欠かせないものであり、時に人の生命を奪うものでもあります。

先日は、宿泊学習において、五年生が「火」に健康等の祈願をしました。火も水と同様、人間にとっては不可欠な物であり、時として命を奪うものです。

子供たちにとっても重要かつ必要な二大要素「水」と「火」。これに対して、安全や健康、成長を誓うのは、学校を代表する高学年なのです。五年生が「火」、六年生が「水」を担当していると考えます。この日、短い時間でしたが、静粛な空気の中でプール開きは終了しました。

今年も「火」と「水」は、扇っ子の身方になってくれるはずです。